

◆ 今週のコメント

- ・ デング熱の報告が1例あり、本年初めての報告で、推定感染地域は、国外(インドネシア)、推定感染経路は、蚊です。平成11年～20年の報告数は、0～5例で、推定感染地域は、すべて国外(タイ、インドネシア、モルディブ、フィリピン、カンボジア、インド、ニューカレドニア、ミクロネシア)で、推定感染経路は、すべて蚊からの感染です。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、1.05で、第4週(1.15)に次いで多くなっています。年齢階級別でみると、4歳が0.24(23.3%)と最も多く、次いで5歳が0.22(20.9%)となっています。

◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

- ・ 今週の定点当たり報告数は、11.25(765例)で、第4週(1月19日～1月25日)(27.51)のピーク以降減少していますが、第8週から減少幅が小さくなっています。

詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	11.25	765
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.39	221
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05	43
	② 水痘	1.05	43
	④ 突発性発しん	0.17	7
	⑤ RSウイルス感染症	0.05	2
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

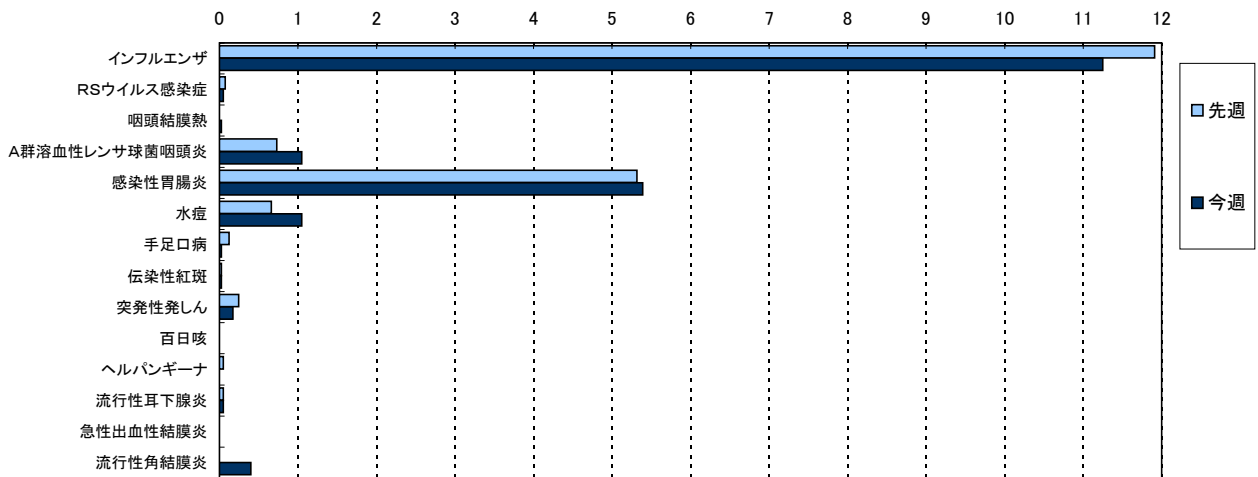
(注) 京都市のデータは、平成21年3月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

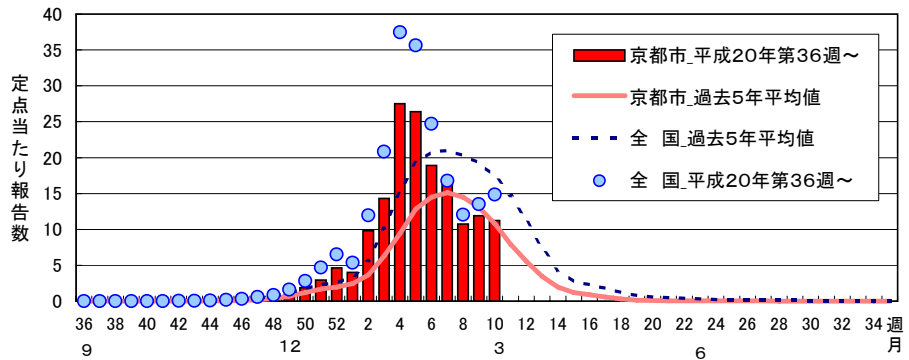
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第10週)と先週(第9週)の定点当たり報告数の比較



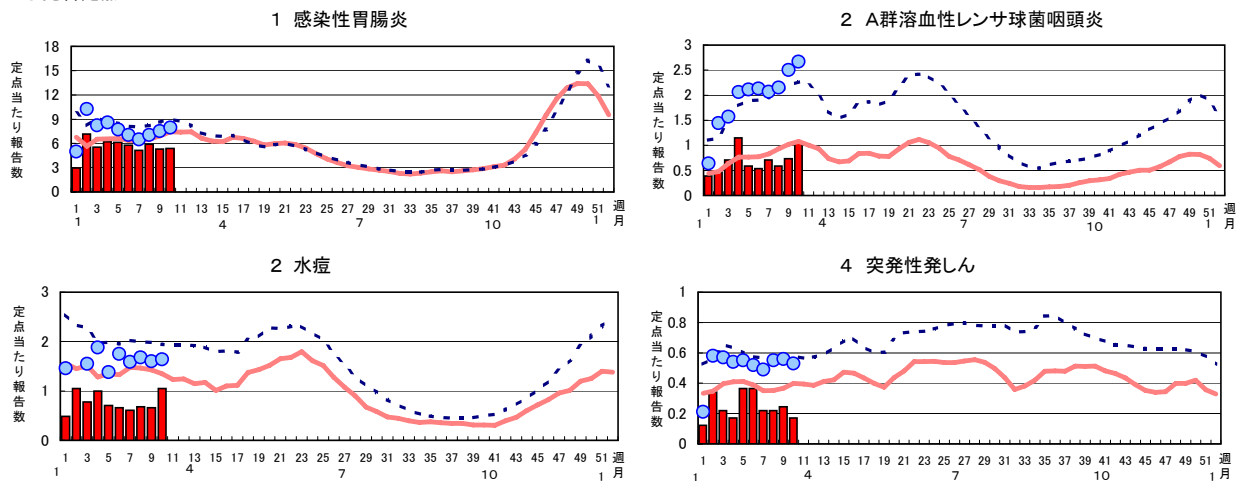
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第6週	1285
第7週	1101
第8週	730
第9週	810
第10週	765
累積報告数 (第36週以降)	11039

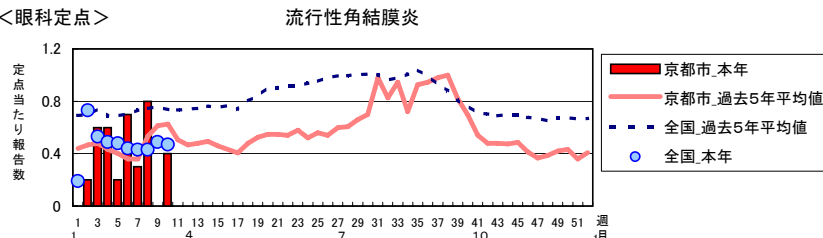


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第10週)のトピックス: <インフルエンザ>

今週の定点当たり報告数は、11.25(765例)で、第4週(1月19日～1月25日)(27.51)のピーク以降減少していますが、第8週から減少幅が小さくなっています。

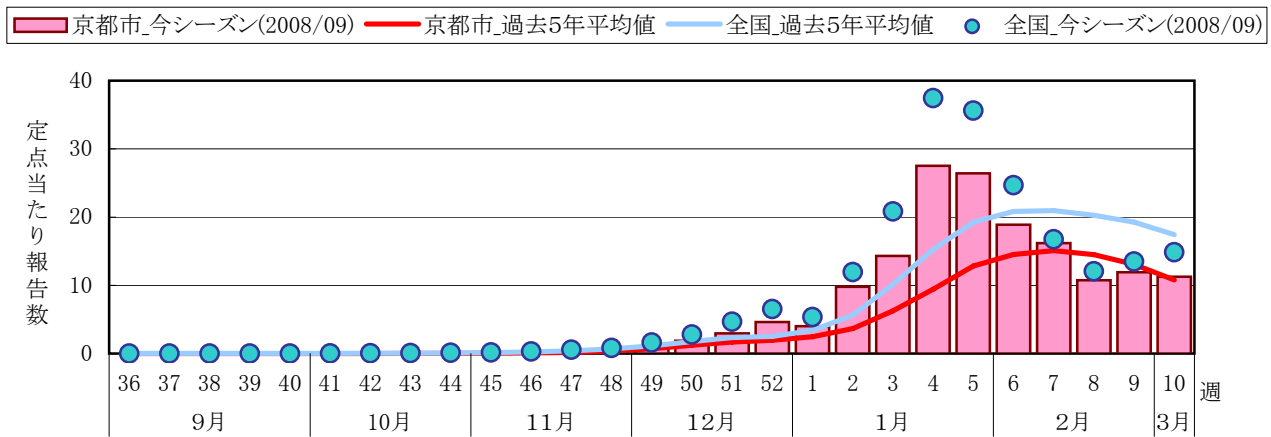
平成11年(1999年)以降の各シーズンのピーク週～6週後の定点当たり報告数の推移をみると、今シーズン(2008/09)は、6週後(今週)の定点当たり報告数が11.25で、10.0(注意報基準)を上回っており、過去シーズンと比べて、最も多くなっています。

年齢階級別割合は、5～9歳が46.3%で最も多く、次いで0～4歳が19.6%となっています。全国では、5～9歳が46.9%で最も多く、次いで10～14歳が24.1%となっています。

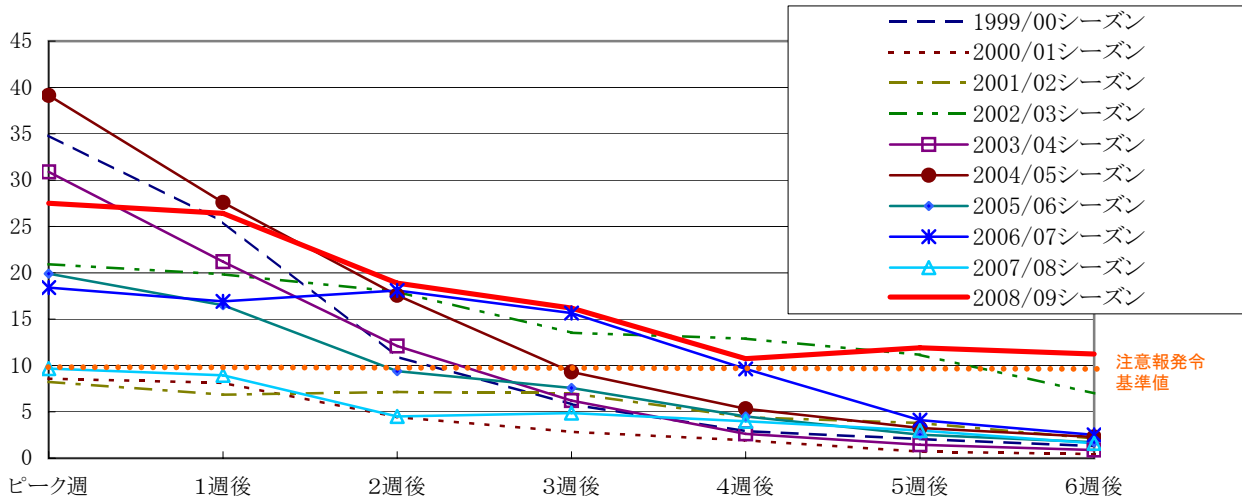
インフルエンザウイルスは、平成20年9月(第36週)以降の累積報告数は、3月13日現在、本市では、Aソ連型(H1)が18件、A香港型(H3)が5件及びB型が3件です。また、全国では、Aソ連型(H1)が2087件(58.2%)、A香港型(H3)が1042件、B型が459件です。

国立感染症研究所感染症情報センターのホームページに、都道府県別の最新のインフルエンザウイルス検出情報が掲載されています。(http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成20年第36週～平成21年第10週)



平成11年(1999年)以降の各シーズンのピーク週～6週後の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合

